

日本手話における文末指さしは何を指すことができるのか？

内堀朝子
(日本大学)

この論文では、日本手話において文末に随意的に現われる指さしを取り上げ、文末指さしが文中のどの要素を指すことができるのかについて、検討する。この論文で論じた主な例文が示すのは、日本手話の文末指さしは、文頭に位置する主語を、それが話題化されているかどうかに関わらず指すことができ、さらに、主語以外で文頭に位置する話題化要素も指すことができるということである。このことは、おおむね原・黒坂 (2013) の観察と合致する。

まず、鳥越 (1991)、市田 (2005)、松岡 (2015)、岡・赤堀 (2011)などの先行研究が指摘するとおり、日本手話の文末指さしは、以下の例文(1)に見られるように、文の主語を指すことができる。

(1) PT₁ PT₃ 好き PT₁

‘私が彼を好きだ’

主語を指す文末指さしは、他の手話言語にも見られる。例えばアメリカ手話では、Padden (1983) が文末指さしのことを‘Subject Pronoun Copy’ (主語代名詞コピー)と名付けている。同様に、日本手話では松岡 (2015)が主語を指す文末指さしを‘文末コピー’と呼んでいる。しかし興味深いことに、岡・赤堀 (2011)は、日本手話の文末指さしは、他動詞の標準的な目的語位置に現われる、対象(theme)である項を指すことができると、以下の例文(2)に基づいて主張している。

(2) (岡・赤堀(2011: 73 (4)) (<https://www.youtube.com/embed/IZm1yS2mLRg?rel=0&showinfo=0>)
ビデオ書き起こし)

__TOPIC

男 女 好き PT_{3(女)}

‘彼女が彼に好かれている。’(岡・赤堀 (2011) による日本語訳からの翻訳)

この例文では、文頭の、他動詞の経験者 (experiencer) である主語「男」は、日本手話の話題化標識 (典型的には、うなずき、眉上げ、見開き、短い間) を伴っている。岡・赤堀 (2011) は、訳文が示すように例文(2)を受動態の文と見なしている。

一方、原・黒坂 (2013) は、まず話題化要素を含まない文で、標準的な目的語位置に現われている目的語を文末指さしが指す可能性について、以下の例文(3)が示すように、否定している。

(3) *兄 姉 待つ PT_(姉)

‘兄が姉を待つ。’

さらに原・黒坂 (2013) は、以下の例文(4)が示すように、もし目的語が文頭に話題化要素として現われているのであれば、文末指さしはその目的語を指すことができると指摘している。話題化要素を指す文末指さしは、オランダ手話など、他の手話言語でも観察されている (Crasborn et al. (2009))。

(4) __TOPIC (原・黒坂 (2013: (5c)))

本 PT₁ 田中 あげた PT_{3(本)}

‘本は私が田中にあげた。’

しかし、原・黒坂 (2013) は、文頭に話題化要素がある文の文末指さしは、二重目的語動詞の標準的な目的語位置に現われる着点(goal)である目的語や対象(theme)である目的語を指すことができないと報告している。

(5) ____{TOPIC} (原・黒坂 (2013: (5b))・一部改変)

*本 PT₁ 田中 あげた PT_{3(田中)}

‘本は私が田中にあげた。’

(6) ______{TOPIC} (原・黒坂 (2013: (4c))・一部改変)

*田中 PT₁ 田中 あげた PT_{3(本)}

‘田中は私が本をあげた。’

本論文ではさらに関連する例文を取り上げて、日本手話の文末指さしが、特に文中の何らかの項が話題化されている文で、実際にどの要素を指すことが許されているのかについて、検討する。また、上の例文(2)を、岡・赤堀 (2011) が最初に仮定したように受動態の文と考えることができるかという問題についても触れる。この点において、今西祐介(私信)による、音声言語における受動化の過程に関する Bruening (2013) に基づいた示唆に従い、文中に、話題化された対象(theme)である項と、動作主(agent)である陰在的な項とがある場合、文末指さしが動作主である陰在的な項を指すことができるかどうかについて、確かめることとする。

References

Bruening, Benjamin. 2013. By Phrases in Passives and Nominals. *Syntax* 16: 1-41.

Crasborn, Onno, Els Van Der Kooij, Johan Ros and Helen De Hoop. 2009. Topic Agreement in NGT (Sign Language of the Netherlands). *The Linguistic Review* 26: 355-370.

原大介・黒坂美智代. 2013. 「日本手話の文末の指さしが指し示すものは何か」日本手話学会第39回大会(三重大学)口頭発表.

市田泰弘. 2005 「手話の言語学 第10回 文構造と頭の動き—日本手話文法(6)「語順、補文、関係節」」『月刊言語』2005年12月号: 91-99.

松岡和美. 2015. 『日本手話で学ぶ手話言語学』東京: くろしお出版.

岡典栄・赤堀仁美. 2011 『日本手話の仕組み』東京: 大修館書店.

Padden, Carol. 1983. *Interaction of morphology and syntax in American Sign Language*. Ph.D.

dissertation, University of California, San Diego. [published in 1988. New York: Garland.]

鳥越隆士 (1991) 「日本手話の文末の位置について」『手話学研究』第12巻: 15-29.